

栃木県那須町の雪崩事故を踏まえた対応について

独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立登山研修所

平成 29 年度安全登山普及指導者中央研修会（第 2 回）の開催

【期 日】11 月 3 日（祝）～5 日（日） 【会 場】国立登山研修所及び大辻山周辺

【後 援】スポーツ庁 【協 力】(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会、(公財)全国高等学校体育連盟

【参加者】46 名 ※内、**高等学校等教職員は 24 名(応募者全員)**

今回新たに、「高等学校等教職員研修コース」を開設。研修内容は、既設の読図・プランニングコースで実施の講義「読図のナビゲーション」、コース別研修「概念図の作成」に加え、特設講義として以下の 2 講義と研究協議を実施。

講義「安全登山の仕組み、プランニング」 講師：北村憲彦氏（国立登山研修所専門調査委員長）

登山の基礎的知識に加え、登山計画から登山中のリスクマネージメント、有事後のダメージコントロール（応急時対応、パーティー全体の安全管理、救助要請など）について解説。

講義「高校生を登山に引率するとは」 講師：大西浩氏（長野県大町岳陽高校教諭・登山研専門調査委員）

安全登山の手立てとしての体制作りや保護者との連携、活動中の安全管理などについて、大西講師が長年指導してきた事例をもとに解説。

研究協議「生徒を引率中に経験したヒヤリ・ハットの事例について」

8 名ずつに分かれ、グループごとにヒヤリ・ハット事例について協議。各自で経験した事例を発表し合い、それに関するキーワードを付け、グルーピングしていく手法で行い、危険事項の予防や対策について協議し、最後は模造紙にまとめて全体の場で発表・共有。

実技研修

グループに分かれて、地形図を読み込みながら、危険箇所の予測、引き返し時間の設定などを盛り込んだ登山計画を立て、計画に沿って山行。現地では、事前に地形図から読み取った情報と実際の地形との整合性を確認し、危険予測や安全管理に活かすことを学んだ。



講義「安全登山の仕組み、プランニング」



研究協議



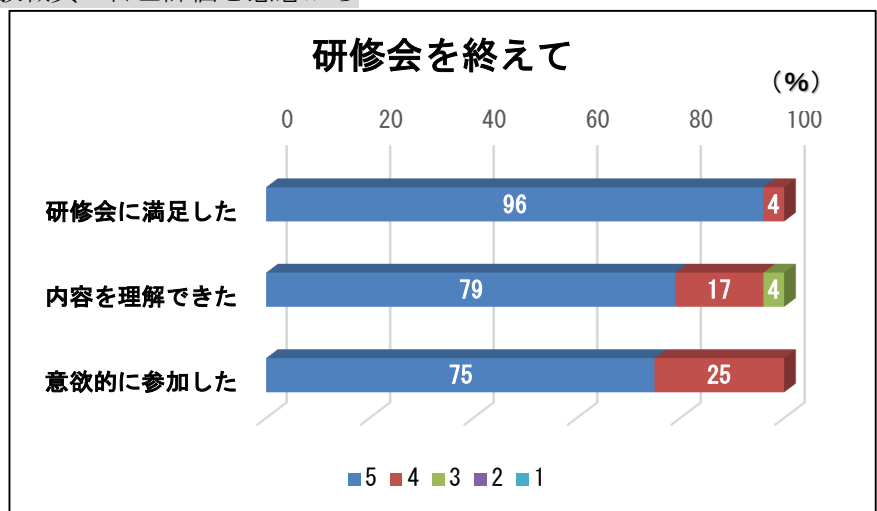
読図の実技研修

高等学校等教職員研修コース参加教職員の自己評価と感想から

研修後のアンケート（5段階評価）では、「満足した」は、5が96%、4が4%。「内容を理解できた」は、5が79%、4が17%、3が4%。「意欲的に参加した」は、5が75%、4が25%。

感想では、「生徒を引率する上で生徒に適確に言葉で伝える努力が不足していると感じた」「他の参加教職員から聞いたヒヤリ・ハットの事例から直接経験していない事例を知り、その原因や対策について

考える機会を持つことができた」「基本的なことがよく理解でき、やっと顧問としてのスタート地点に立つことができた」「全体を通して、専門誌等での独学には限界があることを改めて認識した」「同じ立場の者同士での研修や交流は大変貴重な体験であった」などの声が聞かれた。



高等学校等安全登山指導者研修会の開催

【期 日】12月10日(日)、11日(月) 【会 場】国立オリンピック記念青少年総合センター

【後 援】スポーツ庁 【協 力】(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会、(公財)全国高等学校体育連盟

【参加予定者】33都道府県 88名 ※内、高等学校等教職員 76名(応募者全員)

登山に関する基礎的な事柄の学習を通じ、安全な登山の指導者としての資質向上を図る。

講義内容は、「登山の基本」「積雪と雪崩」「登山の医学」などの分野のうち、基礎的なものを予定。また、高等学校で実際に指導している講師からの実践例の講義やグループディスカッションを通して、高校生を登山に引率する際の危機管理に関する意識を高めることをねらう。

スポーツ庁より「高校生等の冬山登山の事故防止のための方策について」の説明が行われる予定。

【日 程】

1日目

12:30 13:30 13:50 14:50 16:30 18:00

受付	開会式	スポーツ庁からの説明 ※下記題目	講義Ⅰ 「登山の基本」 講師：北村憲彦	講義Ⅱ 「積雪と雪崩」 講師：飯田 肇	講義Ⅲ 「登山の医学」 講師：大城和恵	(1日目終了)
----	-----	---------------------	---------------------------	---------------------------	---------------------------	---------

※「高校生等の冬山登山の事故防止のための方策について」

2日目

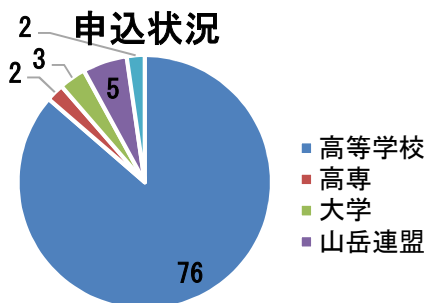
9:00 10:10 11:20 12:20 13:20 15:20

講義Ⅳ 「高校生を登山に引率 するとは」 講師：大西 浩	講義Ⅴ 「登山の仕組みと プランニング」 講師：北村憲彦	講義Ⅵ 「山岳遭難の実態」 講師：高瀬 洋	昼 食	グループディスカッション 及び全体会、講評	閉会式
---------------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------	--------	--------------------------	-----

【参加者の状況】

33都道府県、67団体、88名(男性85名、女性3名)

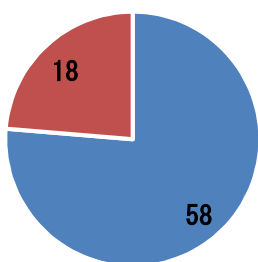
(高校教職員76名 高専教員2名 大学教員3名 山岳連盟5名 小学校教員1名、教育委員会1名)



(高等教職員 76名の内訳)

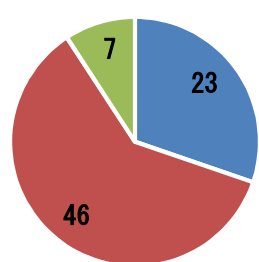
- ・校種 → 公立校：58名、私立校：18名
- ・推薦者 → 都道府県高体連登山専門部長：23名、各学校長46名、教育委員会：7名
- ・地域 → 北海道、東北：7名 関東甲信越：40名 東海北陸：11名 近畿：8名
中国：3名 四国：3名 九州：4名
- ・年齢層 → 20代：6名 30代：10名 40代：28名 50代：30名 60代：2名
- ・平均年齢 → 46歳(最高：64歳 最小：25歳)

校種



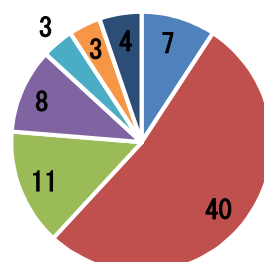
■ 公立 ■ 私立

推薦者



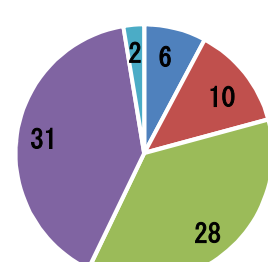
■ 高体連 ■ 学校 ■ 教委

地域



■ 北海道、東北 ■ 関東甲信越
■ 東海北陸 ■ 近畿
■ 中国 ■ 四国

年齢層



■ 20代 ■ 30代 ■ 40代
■ 50代 ■ 60代